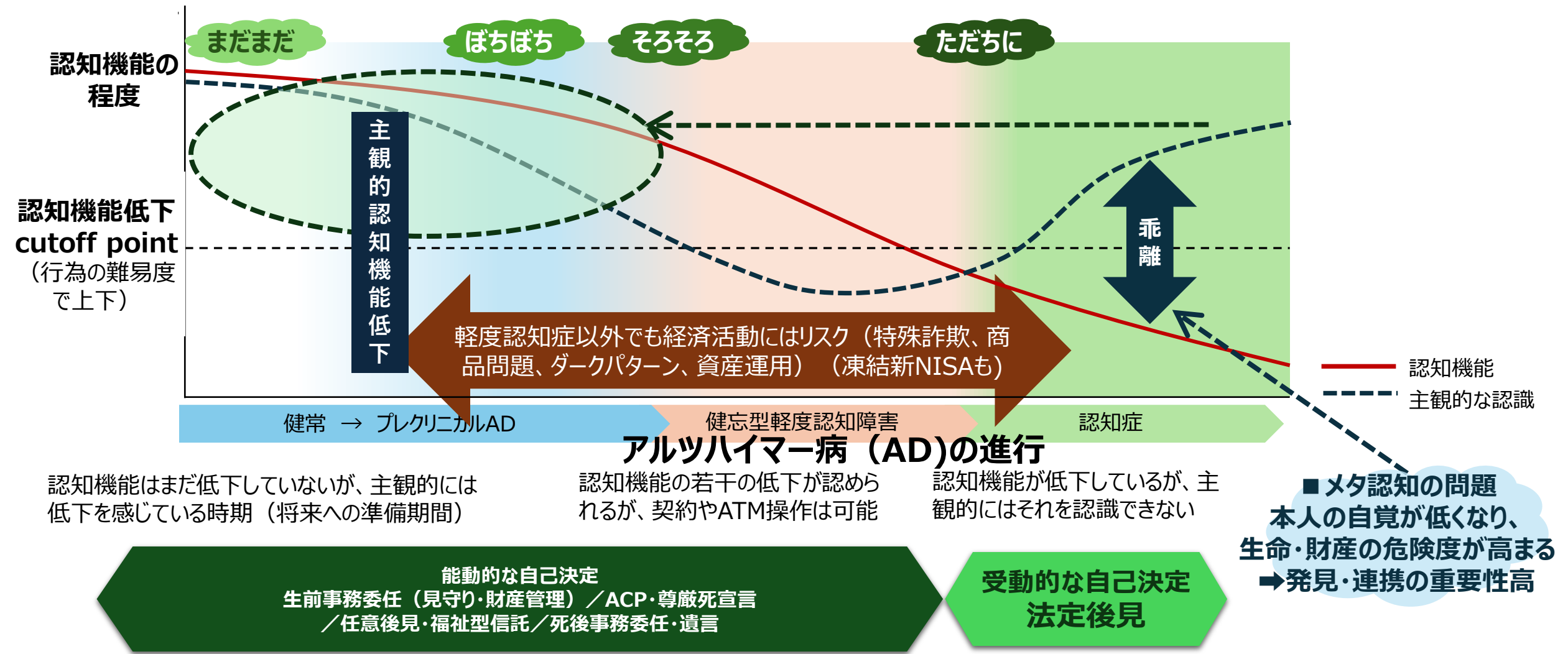


動的に変化する認知機能とメタ認知の問題

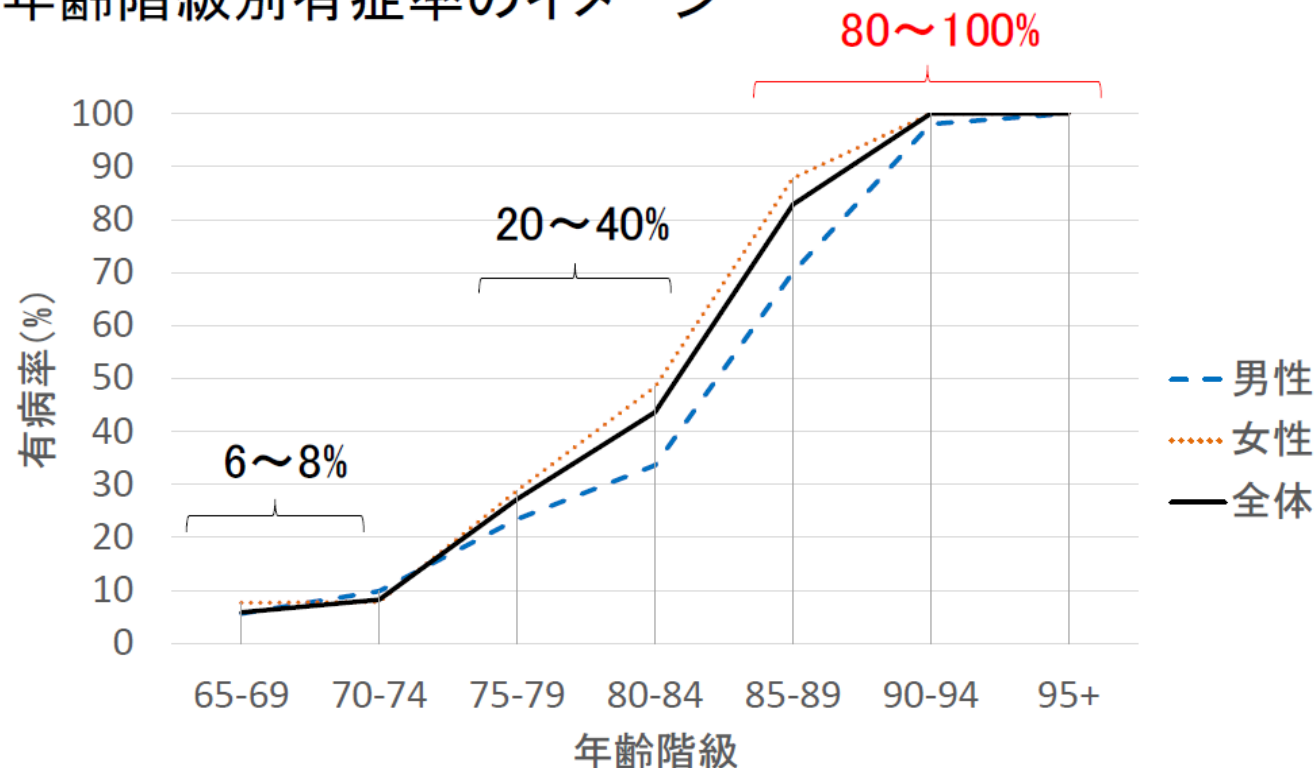
認知症の治療・介護という医学モデルから、認知機能の変化に着目する社会モデルへ



Ávila-Villanueva, M., & Fernández-Blázquez, M. A. (2017). Subjective Cognitive Decline as a Preclinical Marker for Alzheimer's Disease: The Challenge of Stability Over Time. *Frontiers in aging neuroscience*, 9, 377. <https://doi.org/10.3389/fnagi.2017.00377>

年齢別のMCIおよび認知症の有症率

高齢者におけるMCIまたは認知症の
年齢階級別有症率のイメージ



1：MCIは日常生活に大きな障害をもたらすわけではない。しかし、経済活動には影響を与える。

2：アルツハイマー型認知症の新薬は認知症の進行を遅らせるが、軽度認知症は増大する。

3：介護・医療の負担は軽減するが、経済問題が発生する。

4：曖昧で、表明化しない（助けて求めない）ような問題が増大する。

MCIの有症率が認知症の有症率とほぼ同等と見なして作成した。